

株式会社白滝有機産業

2019 年度 環境経営レポート

(対象期間 2019 年9月1日～ 2020 年8月31日)



認証番号0002104



発行日： 2020年10月1日

目 次

項 目	ページ
あいさつ	2
環境経営方針	2
組織の概要	3
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	7
環境経営目標及びその実績	7
環境経営計画の取組結果とその評価	7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	10
緊急事態対応訓練	11
代表者による全体の評価と見直し・指示	11
これまでの環境活動の紹介	12

製品紹介

バイオ有機



主に動植物性残さと剪定枝などの木質系副資材からできる堆肥です。
ガーデニング、花木、野菜・果樹類、ハウス生産物等幅広く使っていただけます。
(岡山県エコ製品認定 岡エコたい肥 第1号)

ハイブリッドスーパー



主に動植物性残さと剪定枝などの木質系副資材からできる堆肥です。
ガーデニング、花木、野菜・果樹類、ハウス生産物等幅広く使っていただけます。

ハイブリッド緑化用



主に汚泥、動植物性残さと剪定枝などの木質系副資材からできるたい肥です。
一般造園関係、芝、ガーデニング、花木などに向く堆肥です。

I. ごあいさつ

環境経営方針

<環境経営理念>

株式会社白滝有機産業は、われわれの日常生活や企業活動から発生する有機性廃棄物を高品質の完熟たい肥や炭化物に変え、環境にやさしい有用資源として社会に還元することを通じて、資源循環型低酸素社会の構築に貢献します。

<環境保全への行動指針>

1. 具体的に次のことに取り組みます。
 - ①受託処理量の安定的確保
 - ②環境配慮型製品の製造・販売の促進
 - ③電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - ④廃棄物の削減
 - ⑤水道水使用量の削減これらについて環境目標・環境経営計画を定め、定期的に見直しを行い継続的な改善に努めます。
2. 環境関連法規及び当社が同意した事項を遵守します。
3. 産学連携により、需要家のニーズに合ったたい肥造りに努めます。
4. 従業員に対し、環境教育を実施し、環境保全に関する意識の向上を図ります。
5. 地域社会と積極的にコミュニケーションを図り、地域に密着した事業活動を行い、地域の環境保全に努めます。
6. 全従業員に対し、この行動指針を周知徹底させるとともに、社外にも公表します。

制定日：2017年6月1日

代表取締役社長 **吉井 忠**

II. 組織の概要

更新日：2019年10月1日

- (1) 名称及び代表者名
株式会社白滝有機産業
代表取締役社長 吉井 忠
- (2) 所在地
本 社 〒701-1221 岡山県岡山市北区芳賀5316番地
TEL：086-286-9035 FAX：086-286-9036
工 場 〒709-4251 岡山県美作市白水1303番地
TEL：0868-75-0378 FAX：0868-75-2610
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 部長 中村 雅亘 TEL：0868-75-0378
E-mail：nakamura@shirataki-bio.co.jp
- (4) 事業内容
産業廃棄物処分量（中間処理）、肥料製造・販売業
- (5) 事業の規模
法人設立 平成3年3月10日
資本金 2000 万円
売上高 37700 万円

2019年度実績			
従業員	15名		
延べ床面積	38,696㎡		
受託した産業廃棄			
収集運搬量	0 t		
中間処理量	25,346 t	うち再資源化量	25,346 t
最終処分量	0 t		
中間処理後の産廃の処分量	0 t	うち再資源化量	0 t

車両	台数	備 考
10tダンプ	1 台	いすゞ
7t ロールオン	1 台	いすゞ
4tダンプ	1 台	いすゞ
4tユニック	1 台	いすゞ
合計		4台
重機	台数	備 考
ホイールローダー	5 台	
リフト	6 台	
油圧ショベル	1 台	
合計		12台

主な処理施設		
名称	内容	備考
混合施設	受け入れた原料を副資材と混合してたい肥化に適した状態にする。	屋内型コンクリート仕様
一次発酵施設	通気設備の整った槽に混合した原料を投入します。通気により強制発酵を行い、リサイクルマシーンで攪拌を繰り返します。約1か月間の発酵管理を行います。	屋内型コンクリート仕様 2m×3m×50mのコンクリート仕様を10レーンで構成しており、発酵槽下部から24時間体制で通気を行っています。発酵槽上部は、リサイクルマシーン（4機）が稼働しており、たい肥を攪拌する仕組みになっています。
熟成施設	堆積方式による二次発酵管理を行います。ホイールローダーによる天地返しを繰り返し、約4か月の熟成期間をようします。	屋内型コンクリート仕様 通気設備完備（2967㎡）
製品梱包施設	完熟したたい肥を粒度選別し、袋に詰め出荷します。	粒度選別機 13mm 15mm 梱包機 20ℓ 40ℓ フレコン詰め設備
炭化設備	完熟したたい肥を粒度選別し、袋に詰め出荷します。副資材を取り除いたものを炭化します。	ロータリーキルン方式による炭化設備 1000kg/時間

III. 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：株式会社白滝有機産業
対象事業所：工場
活 動：産業廃棄物処分量（中間処理）、肥料製造・販売業

IV. 事業の紹介

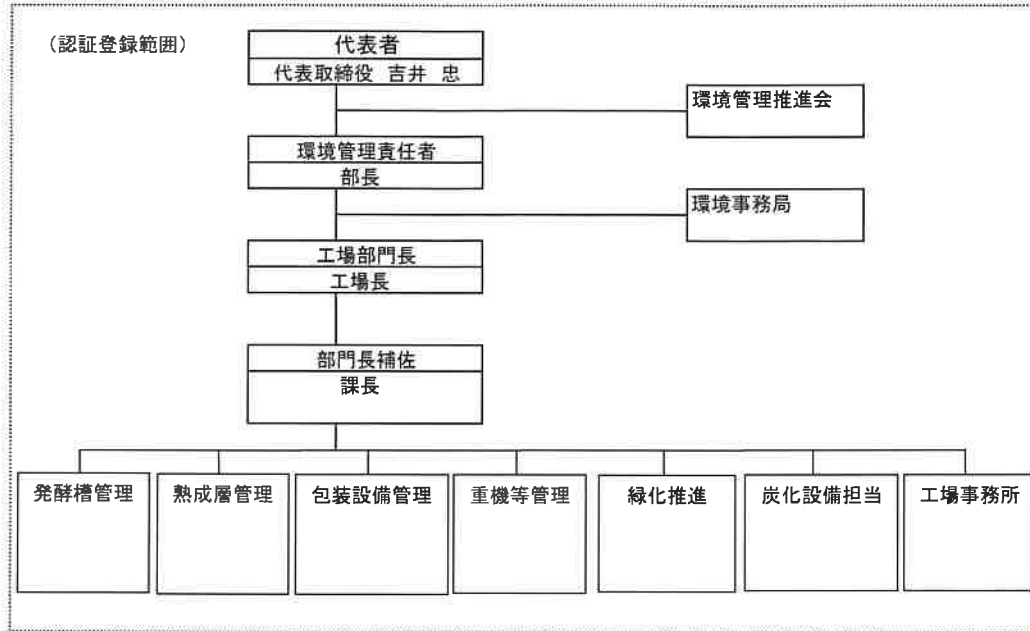


外熱式のロータリーキルン(回転炉)で、エネルギー自立運転が可能。

エネルギー自立型炭化装置といわれ、従来、エネルギー利用が困難であった水分の多い有機性産業廃棄物のエネルギー利用が可能にし、CO2排出量を削減できる画期的な技術です。

V. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2017年9月17日



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 環境管理責任者を任命 環境経営方針の策定・見直し 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直し、指示 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、工場部門長の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
工場部門長	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営計画の審議 環境活動実績の確認・評価
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

VI. 許可の内容

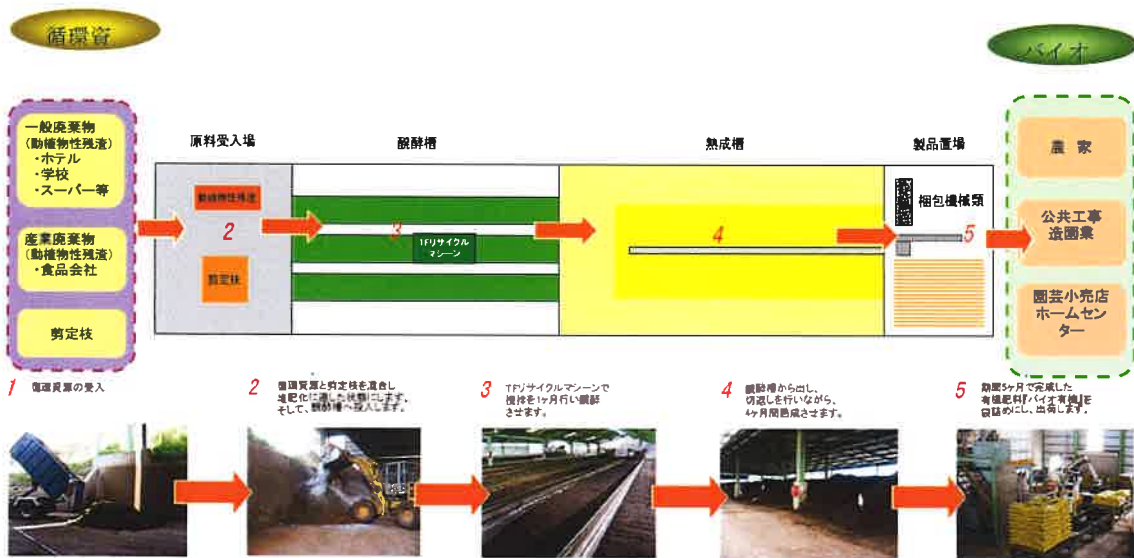
産業廃棄物収集運搬業許可の内容

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	積替保管	廃棄物の種類
岡山県	第03309009920号	平成29年7月3日	令和4年7月2日	無	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、木くず 動植物性残さ、動物のふん尿
兵庫県	第02806009920号	平成29年6月29日	令和4年6月27日	無	汚泥、動植物性残さ

産業廃棄物処分許可の内容

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	事業の範囲	廃棄物の種類
岡山県	第03329009920号	平成29年7月3日	令和4年7月2日	中間処理 (発酵による肥料の製造、発酵乾燥・焼却(炭化)による炭化物の製造)	燃え殻 汚泥 廃油 廃酸 木くず 動植物性残さ 動物のふん尿

VII. 廃棄物処理フロー



Ⅷ. 主な環境負荷の実績

項目	単位	2017年	2018年	2019年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	619,219	649,572	438,803
受託収集運搬量	トン	0	0	0
受託中間処理量	トン	22,420	24,231	25,346
受託最終処分量	トン	0	0	0
廃棄物排出量	kg	110,026	91,515	81,876
一般廃棄物排出量	kg	10,866	3,026	2,816
産業廃棄物排出量	kg	99,160	88,489	79,060
水使用量	m ³	210	2,464	1,899

※二酸化炭素排出係数 0.334 kg-CO₂/kWh 関西電力の2018年度の実績値(調整後)を使用

Ⅸ. 環境経営目標及びその実績

項目	年度	基準値	2019年		評価	2020年	2021年
			(基準年)	(目標)		(実績)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	189,826	184,131	182,060	○	182,233	180,335
	kw	568,341	551,291	545,090	○	545,607	539,924
	基準年度比		97%	96%		96%	95%
A重油による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	17,463	16,939	8,957	○	16,765	16,590
	L	6,444	6,251	3,305	○	6,186	6,122
	基準年度比		97%	51%		96%	95%
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	981	952	1,911	×	942	932
	L	394	382	768	×	378	374
	基準年度比		97%	195%		96%	95%
LPGによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	353	343	375	×	339	336
	m ³	118	114	125	×	113	112
	基準年度比		97%	106%		96%	95%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	208,298	202,049	245,500	×	199,966	197,883
	ℓ	81,336	78,896	95,341	×	78,082	77,269
	基準年度比		97%	118%		96%	95%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	416,921	404,414	438,803	×	400,244	396,075
一般廃棄物の削減	kg	315	306	46	○	302	299
	基準年度比		97%	15%		96%	95%
産業廃棄物の削減	kg	109,045	105,774	79,060	○	104,683	103,593
	基準年度比		97%	73%		96%	95%
受託廃棄物のリサイクル率の向上	t	19,683	20,273	25,346	○	20,470	20,667
	基準年度比		103%	129%		104%	105%
水道水の削減	m ³	3,363	3,262	1,899	○	3,228	3,195
	基準年度比		97%	56%		96%	95%
環境に配慮した製品の販売促進	t	5,821	5,996	10,233	○	6,054	6,112
	基準年度比		103%	176%		104%	105%

ここに記載された一般廃棄物の削減の量は焼却場に持ち込まれた物のみ。その為、主な環境負荷の実績の値とは異なる

Ⅹ. 環境経営計画の取組結果とその評価

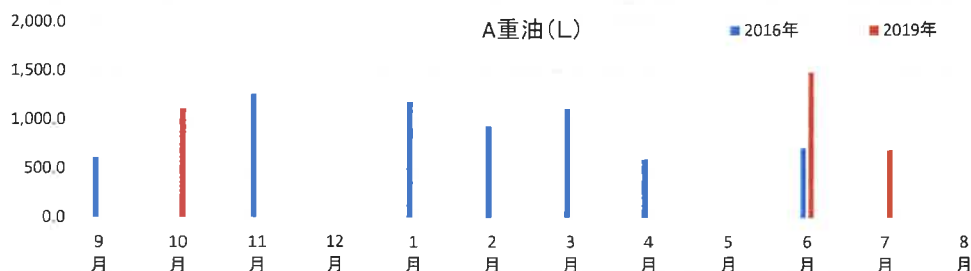
数値目標: ○達成 ×未達成

活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	目標達成。次年度も左記活動を継続する。
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	
・設備機器の空運転防止	△	
・未使用箇所の消灯	○	

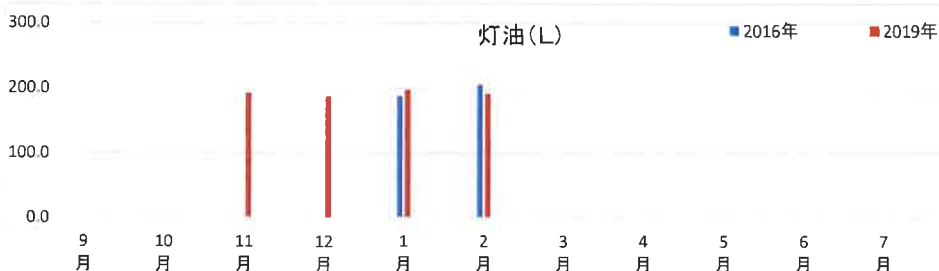


A重油による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	目標達成。次年度も左記活動を継続する。
・節約ステッカーの掲示	○	



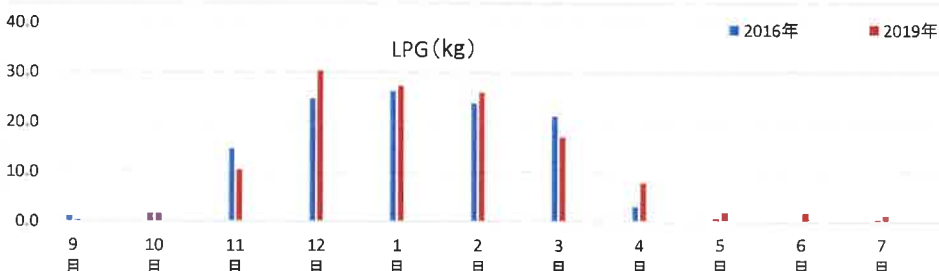
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2016年	614.0	0.0	1,264.0	0.0	1,188.0	945.0	1,111.0	600.0	0.0	722.0	0.0	0.0
2019年	0.0	1,120.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,492.0	693.0	0.0

灯油による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	目標未達成。使用実績の内容を確認し取組の強化を行う。次年度も左記活動を継続する。
・気温管理による暖房制限	○	
・不要時消火	○	



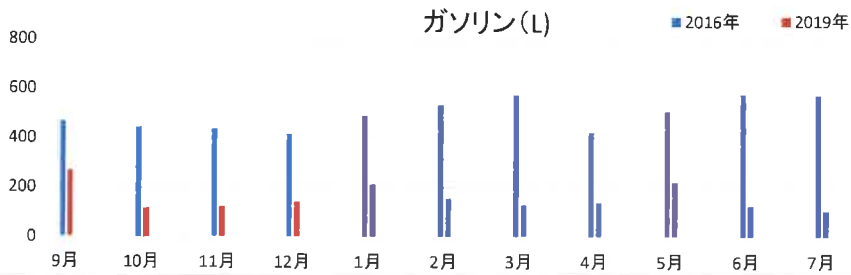
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2016年	0.0	0.0	0.0	0.0	188.0	206.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2019年	0.0	0.0	193.0	186.0	197.6	191.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

LPGによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	目標未達成。使用実績の内容を確認し取組の強化を行う。次年度も左記活動を継続する。
・設備の空運転防止	○	

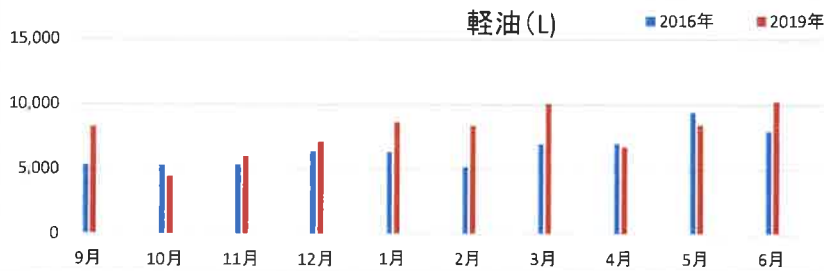


	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2016年	1.1	1.7	14.6	24.7	26.2	23.8	21.1	3.0	0.6	0.0	0.4	0.6
2019年	0.3	1.6	10.3	30.2	27.2	25.9	16.9	7.7	1.7	1.6	1.1	0.6

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	目標未達成。使用実績の内容を確認し取組の強化を行う。次年度も左
・アイドリングストップ	○	
・適正な車両の整備	○	

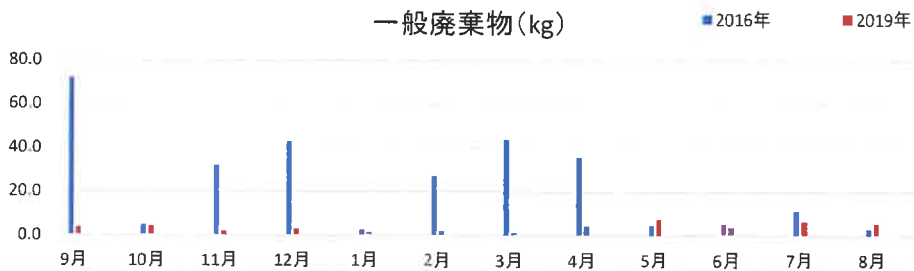


	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2016年	468	443	437	416	488	534	570	422	507	575	571	524
2019年	269	119	122	144	213	157	129	141	221	127	107	101



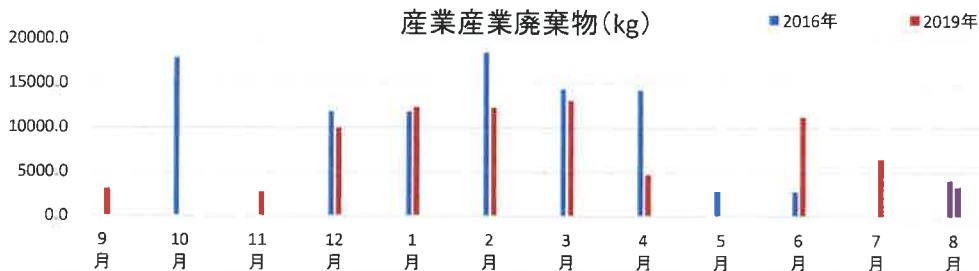
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2016年	5,341	5,308	5,362	6,403	6,369	5,200	6,969	7,026	9,422	7,963	5,825	4,194
2019年	8,258	4,450	5,947	7,112	8,612	8,350	10,045	6,761	8,434	10,238	7,598	7,685

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	目標達成。引き続き取り組みを継続する。
・分別の徹底		
・シュレッダー廃紙のリサイクル化		
・帳票見直しによる印刷物の削減		
・梱包材の再利用		



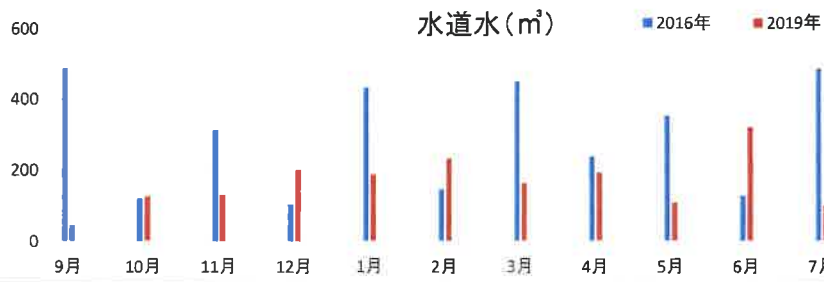
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2016年	72.0	4.9	32.0	43.0	2.5	27.0	43.6	35.5	5.1	5.1	11.3	3.0
2019年	3.6	4.2	2.0	3.2	1.5	2.2	1.5	4.6	7.4	3.5	6.5	5.5

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	目標達成。次年度も左記活動を継続する。
・選別によるリサイクルの推進	○	



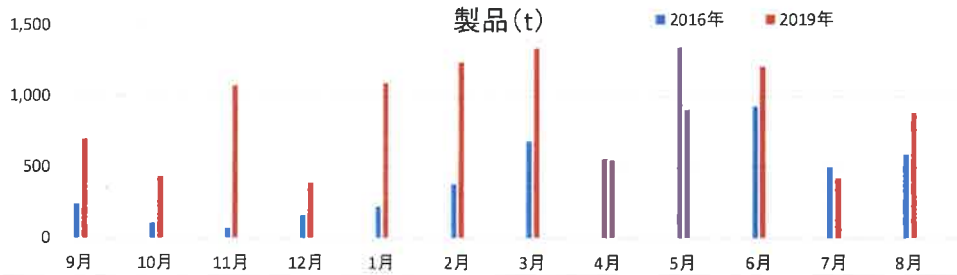
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2016年	24.2	17811.1	50.9	11821.0	11790.0	18483.5	14374.5	14253.0	2810.0	2810.0	0.3	4141.4
2019年	3070.0	0.0	2720.0	9930.0	12270.0	12240.0	13060.0	4720.0	0.0	11210.0	6450.0	3390.0

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	目標達成。次年度も左記活動を継続する。
・節水意識の向上	○	
・樹木水やりの効率化	○	



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2016年	488	122	314	106	435	148	453	240	356	130	488	83
2019年	46	127	132	202	190	234	166	195	110	323	102	72

環境に配慮した製品の販売促進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・市場・顧客情報の調査	○	目標達成。次年度も左記活動を継続する。
・積極的な営業活動	○	
・自社農場による利用の推進	○	



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2016年	246	110	75	165	225	383	686	559	1,347	934	499	594
2019年	695	433	1,076	388	1,095	1,241	1,340	548	904	1,212	420	882

XI. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	収集運搬業、中間処理業、産業廃棄物（廃プラ、廃ガラス、廃油等）
肥料取締法	肥料取締法第7条の規定に基づき登録 農林水産大臣
騒音規制法	空気圧縮機、送風機
振動規制法	空気圧縮機
大気汚染防止法	ばい煙量およびばい煙濃度の測定記録および保管
浄化槽法	浄化槽
食品リサイクル法	再生利用事業内容の揭示および料金の届出・公示
消防法（危険物）	危険物の保管
フロンの排出抑制法	業務用空調機の簡易点検の実施、記録、記録の保管

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

XII. 緊急事態対応訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 令和2年3月14日	■実施場所 工場
■参加者： 山本、赤松、藤木、原田、平井、リー	■実施内容： ・通報訓練、消火訓練、避難訓練
■評価： 年1回」であるけども手順良くできた	手順書の変更の必要 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし



XIII. 代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2020年9月27日

・安全第一、事故ケガをしない様留意する。
・工場内外の整理整頓、装置類のメンテナンスの実施。
・農業従事者の減少に伴い、肥料需要の減少が予測されるため、グループ全体で農業に参入する。現在50町歩の農地及び旧ゴルフ場を60町歩取得し、農地に変換中。
・今後の計画として、旧ゴルフ場跡地に於いて、メタンガス発電1.5MWを計画しており、食品会社より発生する食品残渣等を用い、メタン原料としてメタンで発電し売電し、メタンより分離した炭酸ガスをハウスに導入し、植物の生長を促し、ガスエンジンより発生する排熱でハウス加温、廃液の一部は液体肥料として使用、グループに於いてSDGsを実践。

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり 実績を踏まえて見直す
実施体制	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

XIV. これまでの環境活動の紹介

2010年 炭化設備導入



2013年 美化活動の様子



2014年 美化活動の様子



2017年 消火訓練の様子



2018年 美化活動の様子



2019年 消火活動の様子



XV. 編集後記

受託及び製品の販売実績が安定して目標を達成する状況となっており、その状況に伴う、化石燃料使用状況を更に精度の高い取り組みとして、原単位による評価を検討する。